

緑内障ってどんな病気ですか？



視野の中に見えない部分ができ、徐々に広がっていく「緑内障」。40歳以上の20人に1人、60歳以上では10人に1人が罹患するといわれており、日本人の中途失明の原因では糖尿病を抜いて最も多い。緑内障の早期発見と治療について、白神眼科医院（高松市）の村田晶子理事長に聞いた。

日本人の失明原因1位

■ 緑内障とは。

眼球の中には栄養や酸素を運んだり、内側から圧をかけて形を保つ働きをする「房水」という液体が満ちている。この房水が増えて圧力（眼圧）が高まり、視神経に障害が起きるのが緑内障だ。通常、房水は網目状になっている排水口（隅角）から排出されるが、この排水口が目詰まりすると眼圧が高まる。排水口の周りが狭くなり水が流れ

にくい、あるいは生まれつき狭いタイプもある。

緑内障という名前は、

古代ギリシアのヒポクラテスが急性緑内障を「地中海の海の色のように青くなり、やがて失明状態になる」と記述していることに由来する。だが実際には白内障と違い、見えず分かるほど黒目が見えなくなったり、視野が緑になることはない。

■ 症状は。

慢性緑内障は片目だけでも、両目同時でも発症する場合があり、主な症状は視野の欠損。だが初期は視野の一部が欠けても端の方だったり、小さな範囲だったりするた

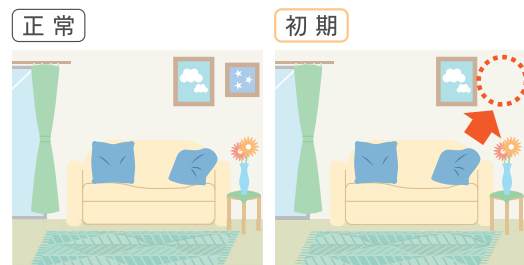
め、頭の中で自然に背景を補い、見えていないことに気付けない。中期ではかすみが出てくるが、

これもちよつと老眼を自覚しはじめると重なり、なかなか受診につながらない。後期では鮮明に見える範囲が狭くなつて、中央に近い部分にも見えないところが出てくる。ここまで進むのに数年から数十年かかる。

一方、急性緑内障は病態が全く異なり、強烈な目の痛みを伴い、短期間で失明に至るため救急対応が必要な病気だ。

■ 検査と治療は。

慢性緑内障は、症状を自覚してからではかなり



視野が欠け始めても気付かない

進んでいることが多い。一度壊れた視神経は回復することがないので、初期に見つけることが肝心だが、そのために有効な眼圧・眼底・視野の検査は、職場などの一般健診には含まれておらず、現在では別の眼病などで受診した際に偶然見つかる場合が多い。しかも日本人の7割は、眼圧が高くないのに起きる「正常眼圧緑内障」だ。これは眼圧としては正常範囲なの

に、その人の視神経にとっては負担になっている状態。眼底検査や光干渉断層計（OCT）検査で、視神経の状態を直接確認することが欠かせない。治療は、眼圧を下げてなるべく視野を維持していくことが目標となる。基本は点眼薬を使い、十分な効果がない場合はレーザー治療や手術も検討する。

■ 予防のためできる

ことは、血流がよくなるため適度な運動は良いとされている。家族に緑内障の人がいる場合はリスクが高いことが分かっているが、それがなくても、40歳を過ぎれば年1回は眼科で目の健診を受けよう。なお強度近視も緑内障のリスクとされているため、子どもの時から目に優しい生活を心がけることが大切だ。

今日のドクターは…

村田 晶子 先生

白神眼科医院理事長



むらた・あきこ 1996年香川医科大学（現香川大医学部）卒。さぬき市民病院、三豊総合病院などを経て白神眼科医院理事長。香川大学医学部医学科臨床教授（兼任）。日本眼科学会認定眼科専門医、JPSA公認障がい者スポーツ医など。

年1回の眼科健診で早期発見を